

会 派 活 動 報 告 書

令和 4年 3月 31日

岡谷市議会議長
小 松 壮 殿

会 派 名 おかや未来研究室
代表者名 中 島 秀 明

令和 3 年度における岡谷市議会 会派「おかや未来研究室」の活動について、下記のとおり報告いたします。

活 動 項 目	活 動 内 容 及 び 活 動 の 実 績 と 効 果
調査研究	<p>○活動内容</p> <p>① 5/28 (株)アイ・コーポレーションの事業の視察 「空き地・空き家を活用した防災備蓄・コロナ対策」 (株)アイ・コーポレーション：花岡社長、宇佐美部長</p> <p>② 5/28 うたと音楽の力で地域社会を築く～楽しく参加できる通いの場の創出「DX エルダーシステム」のプレゼンテーション 第一興商：高林部長（取締役営業）、浜チーフ（営業部開発）</p> <p>③ 7/15 岡谷シルクのブランディングにおける状況や課題の意見交換 地域起こし協力隊：佐々木千玲さん</p> <p>④ 11/16～19 会派視察 北陸：富山県・石川県・福井県 ○富山県朝日町「ノッカルあさひまち」 ○富山県魚津市「富山湾サイクリングロード」 ○石川県金沢市「ユニバーサルデザインいしかわ(UDI)」 ○石川県金沢市「金沢文化スポーツコミッション」 ○石川県金沢市「プログラミング学習（一般社団法人 FAP）」 ○石川県白山市「岡谷絹ブランドの推進（白山工房）」</p> <p>⑤ 3/14 大昔調査会 三上徹也氏との懇談 岡谷市岡屋考古館についての状況説明と意見交換</p> <p>⑥ 3/31 昆虫（フタホシコオロギ）の養殖加工 Cricket 社坪井大輔氏との意見交換と Cricket Farm の見学 ※活動内容の詳細は会派ホームページ（http://okalab.info/）に公開中。</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>①(株)アイ・コーポレーションの事業の「空き地・空き家を活用した防災備蓄・</p>

コロナ対策」～社会問題を解決する「HIRAMEKI」の提案～視察と意見交換

・日時：令和3年5月28日 AM10:00～12:00

・場所：アイ・コーポレーション「sonae」

花岡社長、宇佐美部長（リノベーション）

概要：

(株)アイ・コーポレーションの事業のリサイクルされたコンテナを防災倉庫、ショップ、オフィスやガレージ等の用途に向けてリノベーションした「HIRAMEKI」と防災関連グッズの販売、防災・防犯の情報発信及び防災教育に向けたステーションである「sonae」の現地視察と意見交換。

リサイクルのコンテナ（JR貨物、海上貨物用）を再利用することで、コストを抑えながらも窓や断熱やインテリア及び空調等を備え、アピール度の高いコンテナショップを提供できる。移動や設置等が大変ということがあるが、機能的、デザイン的には、簡易タイプのプレハブよりも強固であり、使い勝手も良いと思われる。

防災倉庫としては、逆に、簡易タイプの倉庫等があるのでコスト的な面から競争力があるのかどうか疑問でもあった。

また、防災倉庫とショップとの兼用は、そもそも用途が異なっており、一緒にすることは多少無理があるように感じたが、コンテナショップ、防災倉庫ともリサイクルのコンテナの活用という面からは今後に大きなポテンシャルがあると思われる。

今後、岡谷市でも活用に向けた可能性を探っていきたい。

②「DXエルダーシステム」のプレゼンテーション

うたと音楽の力で地域社会を築く～楽しく参加できる通いの場の創出

・日時：令和3年5月28日 PM1:00～3:00

・場所：会派室

第一興商：高林部長（取締役営業）、浜チーフ（営業部開発）

概要：

歌と音楽の力で地域社会を繋ぐことを目指して、カラオケ機能に高齢者の介護予防（フレイル対策）と健康増進プログラムを搭載した「DXエルダーシステム」に関するプレゼンテーションと意見交換。

カラオケの第一興商が取り組んでいるカラオケを活用した健康づくりや高齢者のフレイル対策となるシステムであったが、既に、岡谷市でもいくつか導入されて活用されており、今後、この「DXエルダーシステム」を操作していく地域インストラクターの養成にも取り組んでいくことでシステムの普及をしていきたいとのことであった。

カラオケという、特に、高齢者にとってなじみやすいコンテンツをフレイ

ル対策や健康づくりに活用していくという取組は、非常に面白い取組であり、岡谷市でも既に一部で取り込まれているが、今後、更に普及していく可能性が高いと思われる。

③岡谷シルクのブランディングにおける状況や課題に関する意見交換

・日時：令和3年7月15日 AM:10:00~11:00

・場所：会派室

地域起こし協力隊：佐々木千玲さん

概要：

地域おこし協力隊の最終年度として、岡谷シルクのブランディングの状況や課題などに関する情報交換と議員サイドからの協力体制への意見交換

地域おこし協力隊の活動を今後も市がしっかりと受け継ぎ、継続していくためには、名前やロゴマークを作成して広告するという目に見える施策にとどまるのではなく、もっと大きな視野を持ってしっかりと向かうべき先への戦略をたてなければならないということを理解する必要性を学んだ。提供をするものの価値の見極めやその魅力が心に残るような伝え方ができているのかをしっかりと学びなおし、継続のために何が必要なのか見極める力が必要であり、そういった点を今後も様々な形で伝えていくことが求められている。

④会派視察 北陸：富山県・石川県・福井県

●「ノッカルあさひまち」公共交通の取組

・場所：富山県朝日町

・日時：11月16日（火） 10:00~12:00

概要：

朝日町の公共交通サービス「ノッカルあさひまち」は、ご近所さんの自家用車でのお出かけついでに「乗っかる」ことができる、助け合いの気持ちをカタチにしたサービスで、各地区と中心街を行き来する住民ドライバーの車に移動したい乗客が「乗っかる」仕組みとなっており、ドライバーは助け合いの精神のもと、自分の予定に合わせて近所の利用者を自分の車に乗せて、目的地まで送迎する。利用者は、ドライバーの予定を見て事前に予約しドライバーの車で目的地まで移動することができる。

人口減少、高齢化の地方において公共交通等の日々の移動に困っている人々のニーズに向けた新たなモビリティサービスの創出であった。課題も多い中、企業との連携を図り実証実験を丁寧に行うなど地道に取り組んでいる。道路運送法を遵守しながらコース設定、運行管理委託、そして住民の助け合い精神等、参考になる点が多かった。

●「富山湾サイクリングロード」サイクリング体験

・場所：富山県魚津市 富山湾サイクリングロード

・日時：11月16日（火） 14:00～16:30

概要：

富山湾サイクリングロードの一部（富山湾岸沿い）を自転車で実際に体験（約15kmコース）した。富山湾岸沿いだけでなく魚津市の観光名所をガイドの方に案内してもらった。

湾岸沿いということでコースが平坦で、Eバイク（電動アシスト）ということもあり、非常に快適であった。ガイドの方があまり慣れていないようで多くの観光名所を案内してくれたのは良かったが、もう少しポイントを絞ったガイド（例えば、蜃気楼が見える箇所の説明をすとか）でも良かったのではないかと思った。

この辺は、今後、諏訪湖周サイクリングロードが出来た際には大いに参考にしていきたい。

●「ユニバーサルデザインいしかわ(UDI)」ユニバーサルデザインの取組

・場所：石川県金沢市 ユニバーサルデザインいしかわ (UDI)

・日時：11月17日（水） 9:30～12:00

概要：

UDIは、1.北陸型ユニバーサルデザインプロジェクトの実現 2.多様な「事業主体」と「ユーザー」をつなぐネットワークの形成 3.ユニバーサルデザインを実践する人材の育成を活動方針として、北陸の地域特性に根差したユニバーサルデザインの普及を図る事業を行い、福祉医療、地場産業、建築、スポーツ、アート、観光業等の様々な領域において、ユニバーサルデザインで課題解決やデザインの推進することで、多様で豊かな生活情景の醸成及びまちの実現に寄与することを目的としている。

ユニバーサルデザインとは、「多様なユーザーの実現、リアルな問題や体験しないと分からない目指すべきベクトルを共有する、お互いに肩を並べ共通の課題に対するプロセスや理念及び精神を大事にして、守るべきものから超えるべきものを目指す」等、ユニバーサルデザイン 7 原則具現化の考え方が理解できた。

岡谷市には平成16年に制定した「岡谷市市民総参加のまちづくり基本条例」があるが、岡谷市を再生する上で大切なキーポイントがユニバーサルデザインの考え方・実践の中にあるのではないかと考えさせられた。

●「金沢文化スポーツコミッション」文化・スポーツ・観光連携の取組

・場所：石川県金沢市 金沢文化スポーツコミッション

・日時：11月17日（水） 13:00～15:30

概要：

金沢市で文化スポーツコミッションとして、金沢の文化とスポーツに関してワンストップで対応すると共に、金沢の観光資源とも組み合わせた一体的な文化スポーツツーリズムを実践している。

従来までのスポーツツーリズム（観光に向けたスポーツの活用）と異なり、伝統文化も含めたツーリズムは先進的で興味深い取り組みであった。

スポーツの大会に訪れた人に地域の魅力を伝えることで観光や地域の活性化に繋げるだけでなく、地域を巻き込んだ取り組みとすることにより地域の人が、そのスポーツを知って理解することは、スポーツの裾野を広げる上でも効果的であり、普及にも繋げていくことができる取組は、今後の岡谷市のスポーツ行政の方向性に向けて大変に参考になった。

●「プログラミング学習」教育へのプログラミング学習の取組

・場所：石川県金沢市 一般社団法人 FAP

・日時：11月18日（水） 9:30～12:00

概要：

金沢市を中心に全国で、学校の授業やプログラミングスクールで学ぶ前の子ども達にテクノロジーに触る楽しさを伝える活動をしている。学校でも始まっているプログラミング学習の導入になるような内容を、楽しさを重視して行っており、自治体や民間のイベント企画・運営、公民館でのイベント開催、学校での講義など様々な要望に対応すると共に、アドバイス、プログラミング機材貸出や教材開発なども行っている。

また、金沢市の厚意により、金沢市直営の施設である「金沢未来のまち創造館」の視察を行った。金沢未来のまち創造館は廃校になった4階建ての小学校の校舎を改修、一部増築し整備された「スタートアップ・新ビジネス創出」、「子供の独創力育成」、「食の価値創造」の3つを柱に事業展開し、金沢市における新たな産業の創出と未来で活躍する人材の輩出を図るための施設であり、金沢市が管理運営を行い、3つの事業は公募型プロポーザルにより選定された一般社団法人 GLL が担う、官民連携型の価値創造拠点施設で、総工費 10 億円程。1階は公民館やカフェスペース、展示スペースで、展示スペースでは施設で行われている研究についてなどが展示されていた。2階にはシェアオフィスやコワーキングスペース、また託児室も備えてある。シェアオフィスに入れる企業には最先端技術を活用し新たなビジネスを展開するもの、食と工芸に付加価値を生み出すもの等の基準があり、新たな価値を生み出す企業を選定しているとのことで、3階は多目的室やワークスタジオとなっていたが、子どものフロアとの位置づけもあ

り、FAPなどで学び、興味を持った子供がステップアップして学べるIT部活という取り組みも行ってた。4階は研究のフロアであり、調理室や研究室が整備されていた。調理関係の機器がとて充実しており、金沢の食文化にかける思いの大きさが覗えた。

FAPの取り組みの視察に加えて、金沢市の先進の施設も見ることができたが、子ども達にプログラミングに親しんでもらおうと取り組んでいる団体があり、そしてさらに深く学ぶための施設も市によって整備されているというのは子どもたちにとっては素晴らしい環境である。民間と市の連携がよく取れている印象があり、官民の連携の重要性を改めて認識した。

●「岡谷絹ブランドの推進」岡谷絹ブランドの取組

・場所：石川県白山市 白山工房

・日時：11月18日（水）13:45～15:30

概要：

岡谷絹工房宮坂博文氏は、「ブランドとは素材の様々を駆使すること」、また、その根底には土地柄が大切であると述べている。無形文化財の牛首紬、白山紬というブランドを学ぶことで、あらためて岡谷シルク（絹）を学び直し、岡谷シルクのブランド推進のための施策を考えると共に、宮坂氏の着物の裂帖についての詳細を調査した。

岡谷市が今後おこなっていかねばならない新しいシルク文化は、宮坂氏が携わり命を吹き込んだ岡谷絹工房を抜きには全く考えられないことをあらためて認識した。また、文化として岡谷に根付かせなければならず、そのためには、普段の生活と密接に関わるもの、または事柄でなければならぬことが再確認できた。

⑤大昔調査会 三上徹也氏と岡谷市岡屋考古館の状況説明と意見交換

・日時：令和4年3月14日 AP9:00～10:00

・場所：会派室

大昔調査会 三上徹也氏

概要：

一般社団法人大昔調査会は文化財保護等、行政ができないことや、やり難いことについて諏訪郡広域での活動を行っている。県外の会員は、合わせて約50名おり、岡谷では4名ほどが活動を行っている。

岡谷市の岡屋遺跡については偶然発見されてから発掘調査、保存が市民団体により行われており、市民の文化財保護精神という点からも貴重な遺跡であるとのことであった。施設の維持管理については大昔調査会でも行っていくことができなくはないが、地域の貴重な資源を後世に残していくた

	<p>めに、行政も積極的に関わっていくことの必要を訴えていた。</p> <p>文化財等については貴重な地域資源のひとつとして活用されるべきものであると認識しているが、岡屋遺跡は、これまでにあまり知られておらず、複合遺跡という貴重なものであることから観光資源としての活用も期待できるが、維持管理の問題の早期解決と共に、今後どのように活用していくか、その方策についても模索していくことが必要である。</p> <p>⑥昆虫（フタホシオオロギ）養殖加工の Cricket 社 坪井大輔氏との意見交換と Cricketfarm の見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和4年3月31日 PM14:30～16:30 ・場所：岡谷市川岸 Cricket 社/Cricketfarm Cricket 社 坪井大輔氏 <p>概要：</p> <p>岡谷市の川岸で昆虫（フタホシオオロギ）の養殖加工している坪井氏は北海道出身の起業家であり、専門はITで複数の企業を経営している。現在は、茅野市（古民家に住みたかったが岡谷にはなかったため茅野市）に在住している。岡谷市川岸にある元工場を利用しフタホシオオロギ（石垣島などに生息。雑食である）を養殖加工しており、SDGsの観点から、市の学校教育で食育として取り組んでほしいとの要望があった。</p> <p>食料自給率のこと、私たちが産業動物から頂いている命のこと、フードサプライチェーンによる栄養格差のこと、岡谷市には昆虫を栄養源として考えている風土があること、市内の学校給食は地産地消を大切にしていること等、岡谷市の学校教育における食育として結び付く可能性が高いと思われるが、これまで給食で蛹やイナゴなどを出したことはないとのことで、今後は学校給食の栄養士さんと話をする機会などを設けていきたい。</p>
<p style="text-align: center;">研 修</p>	<p>○活動内容</p> <p>※令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、研修やセミナーの多くが中止となった。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 4/15 議員研修「JIAM 令和3年度第1回市町村議会議員特別セミナー」 ② 7/20 議員研修「JIAM 令和3年度第2回市町村議会議員特別セミナー」 <p>○活動の実績と効果</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「JIAM 令和3年度第1回市町村議会議員特別セミナー」議員研修 <ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和3年4月15日/16日 ・場所：滋賀県大津市 全国市町村国際文化研修所 <p>【講義1】</p>

「人口減少・ポストコロナ社会のデザイン」

京都大学こころの未来研究センター 教授 広井 良典 氏

概要：

人口減少・ポストコロナの社会に向けて、AI を活用した持続可能な日本に向けた政策、分散型社会のコミュニティとまちづくり、ローカライゼーション (Localization) と伝統文化の重要性、若者支援と人生前半の社会保障の重要性についてのテーマでの講演であった。これからのグローバル化の先にある世界で目指すべき社会モデルは「個人の生活保障の分配の公正が実現されつつ、それが環境・資源制約とも調和しながら長期に渡って持続できるような社会」であるとしていた。

日本は人口減少・高齢化社会のフロントランナーとして、相対的に費用対効果の高い形での長寿を実現しており、各地域の伝統文化の保存もされている。元来、分散的で地域の多様性が豊かな社会であることから、ローカルから出発しつつ、環境・福祉・経済が調和した持続可能な福祉社会のモデルを先導的に実現・発信していくポジションにあるのではないかとの講演内容であった。

【講義 2】

「コロナ禍のピンチをチャンスに変える自治体になるためには？」

奈良県生駒市 市長 小柴 雅史 氏

概要：

生駒市は、奈良県の北側に位置し、大阪まで電車で 20 分というベッドタウンの色合いを持った市（約 12 万人）で、小中学生の学力が全国トップレベルとのことであった。今回のコロナ禍をチャンスに変えるための様々な施策や取組を行政として行っている。特に、ICT 化や自治体 3.0 (独自に提唱) のまちづくりに向けた、プロフェッショナルな人材の確保に力を入れており、全国から広く人材を募集しているとのことであった。

また、議員に向けては、地域に飛び出す現場力、具体的提案をする専門性、まちづくりに向けた地域愛、行政の施策や議会活動を発信する発信力を磨くことを要望した講義内容であった。耳の痛い話でもあったが、議員として望まれることを明確に指摘してもらったことは、今後の議員活動の参考になった。

【講義 3】

「これからのスマート農業～新しい地域農業の創生」

北海道大学大学院農学研究員 教授 野口 伸 氏

概要：

農業における Society5.0 としてのスマート農業、農業の自動化に向けたロボットの活用、農業の今後の展開に関する講義内容であった。

初めに、スマート農業の重要性、Society5.0 の内容、農業データ連携基盤 (WARGI) の内容及び活用等の説明があり、次に、農業の自動化を進める上

での現在、実際に活用されている様々なロボットの実証例を紹介があった。就業者人口の減少と高齢化が進む日本農業においては、スマート農業技術の導入は不可欠であること、内閣府 SIP「次世代農林水産業創造技術」では、水田農業のスマート農業技術の開発を行っており、その核となる農業データ連携基盤（WARGI）を構築したこと、ロボット農機の小型化と低コスト化の課題はあるものの近い将来実現すること、SIP 第二期により生産のスマート化から流通・消費のスマート化へと今後拡充・発展していくこと、中山間・野菜・果樹等のスマート化はこれからであること等が説明されていたが、スマート農業は技術と基盤整備（農地&電波）は、その両輪であり、その地域に適合したスマート農業は、その地域で創る必要があること等の講義内容であった。

【講義 4】

「令和の戦国武将・今、女将が地域と共に立ち上がる」

さぎの湯温泉旅館 竹葉 女将 小幡 美香 氏

概要：

島根県安来市のさぎの湯温泉「竹葉」の女将で、「どじょうすくい女将」としてしまね観光 PR 大使として地域の盛り上げに活躍している女将の講演であった。

現在のコロナ禍で、本業の旅館経営が厳しい中、通販・テイクアウト・仕出しに活路を見出して、市田柿の各種製品開発により売上を伸ばしている。また、メディアへの露出をどじょうすくい女将として積極的に活用して、地域の盛り上げに貢献すると共に、様々な SNS（フォロワー数のべ 16,000 人）を全方向で利活用して地域の情報発信を行っている。プレイヤー兼地域プロデューサーとして、地域の生き残りに向けて観光業からのイノベーションを目指して地域（島根県）の個性的魅力を察発見することで、心も経済も豊かな島根県にするように活動しているとのことであった。

また、議員に向けては、未知なる道を創ること、最小労力で最大効果となる様に有限の時間での無限の縁を大事にすること、「守・破・離・創」の心構えを持ってもらいたいこと等の講演内容であった。

②「JIAM 令和 3 年度第 2 回市町村議会議員特別セミナー」議員研修

- ・日時：令和 3 年 7 月 20 日/21 日
- ・場所：オンライン研修
- ・参加者：中島 秀明、渡辺 太郎、遠藤 真弓、吉田 浩、武井 友則

【講義 1】

「本当の意味での『健康しが』へ」

滋賀県 知事 三日月 大造 氏

概要：

滋賀県の特徴と文化・観光資源の紹介とコロナ禍による危機を転機とする

ことでポストコロナ社会に向けた滋賀県の取組を現職の知事である三日月氏が講演した。

【講義 2】

「改めて議会とは何かを考える—政治学の知見から」

京都大学大学院法学研究科 教授 曾我 憲悟 氏

概要：

議会における役割と議会での議決に関する手段を様々な観点から分析した内容を中心とした講義であった。

- 1) 集合知が働くとき、働かないとき
- 2) 議会での決定
- 3) 議会における議決の解決策
- 4) 議会での議論の必要性
- 5) まとめ

【講義 3】

「人口減少社会における地方自治体の役割」

明治大学政治経済学部 教授 加藤 久和 氏

概要：

- 1) 人口減少時代に向けて直視すべき現実に関して
 - ・ 今後 50 年間で総人口の 1/3 が減少する（地方を中心に）が、地方消滅以降の議論が有効に活用されてきたか？
- 2) 人口移動の現状と東京への一極集中について
 - ・ 現在の人口は東京圏に集中している。また、人口移動は雇用と密接な関係があり、東京一極集中をどのように考えるか？
- 3) 地方創生と自治体の役割と課題
 - ・ 地方創生に向けた視点に整理—コストと効率性を踏まえて、新たな国土のあり方と地方自治体の役割を考える

【講義 4】

「Society5.0時代の到来と行政のデジタル化」

東京大学大学院情報学環学環長 教授 越塚 登 氏

概要：

- 1) デジタルの課題
 - ・ IT/ICT の課題、日本のデジタル分野の課題等、デジタル技術で国民の日常は大きく変わった状況の説明
- 2) デジタルガバメントの動向
 - ・ デジタル庁の経緯（1）、デジタル庁の経緯（2）、地方自治体・地方公共団体のデジタル化と政府の主要な動きの解説
- 3) 地方自治体のデジタル化 全体の状況
- 4) デジタル化、DX
 - ・ デジタル化/DX の構造、変革すべき DX プロジェクトを阻む課題、業務

	<p>の効率化とデジタルのマイナス効果、DX のアイデア事例の紹介</p> <p>5) 自治体行政のデジタル化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方自治体/地方公共団体のデジタル化に向けた政府の主要な動き：デジタルガバメント実行計画、デジタルガバメント閣僚会議、内閣府 IT 総合戦略室、総務省「地方自治体の DX 推進に係る検討会」、総務省「地方自治体における業務プロセス/システムの標準化及び AI/ロボディスクの活用に関する研究会」等の概要の説明 <p>6) 地域課題の解決と地域経済の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電力データと AI 活用の不在配送問題解決、Smart transportation、データ駆動型農業 (IoTx 農業)、IoT 林業、IoTx 漁業、スマート水産業 (AI+IoT による車海老養殖支援)、Small DX (地域で DX を成功させるには) 等の紹介 <p>＜ステップ 1＞ 地方で PoC (概念実証)、Small スタート、共創</p> <p>＜ステップ 2＞ 地方での成功</p> <p>＜ステップ 3＞ 世界へのスケールアップ</p>
<p style="text-align: center;">広 報</p>	<p>○活動内容</p> <p>① 1/28 会派おかや未来研究室のリーフレット (活動版) の作成・配布</p> <p>② 通年 会派ホームページと Facebook による活動の発信と報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ：http://okalab.info/ ・ Facebook：https://www.facebook.com/okayamirai.lab/ <p>○活動の実績と効果</p> <p>①会派おかや未来研究室のリーフレット (活動版) の作成・配布</p> <p>会派おかや未来研究室の活動やメンバーを紹介したリーフレット (活動版) を作成 (5,000 部) し、各自で配布 (約 3,500 部) した。</p> <p>今後、会派メンバーによる市政報告会及び市民や市民団体との交流会においての配布や活用を予定している。</p> <p>※別紙「会派リーフレット (活動版)」</p> <p>②会派おかや未来研究室の Facebook に 555 人がフォロー中 (令和 4 年 3 月 25 日現在) であり、また、会派のホームページや Facebook 及び会派メンバーの各自の Facebook で活動報告等の情報発信を行っている。</p>
<p style="text-align: center;">広 聴</p>	<p>○活動内容</p> <p>①10/28 講演会の開催</p> <p>「隠された地震の記憶をたどる～諏訪地域における昭和 19 年東南海地震の被害復元の取組～」 / 「震災アーカイブ利活用の展開」</p> <p>信州大学教育学部 教授 廣内 大助 氏</p>

	<p style="text-align: center;">信州大学教育学部 特任教授 内山 琴絵 氏 信州大学教育学部自然地理学研究室 奥山加蘭 氏</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>①信州大学 廣内研究室による講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和3年10月28日 PM1:30～3:00 ・場所：市役所全員協議会室 <p>※議員（会派メンバー以外も含めて）と市職員（危機管理室）が参加。</p> <p>「隠された地震の記憶をたどる」</p> <p>概要：</p> <p>昭和19年に発生した東南海地震の諏訪地域における状況とそれによる被害状況を当時の資料や体験者の証言を基に再現し、記録としてアーカイブ化すると共に、将来発生の可能性の高い次の東南海地震に向けて地域防災に活用することを提唱した研究となっている。</p> <p>「震災アーカイブ利活用の展開」</p> <p>概要：</p> <p>2014年に発生した神城断層地震の記録をデジタルアーカイブ化して、学校や地域での防災教育や学習、アーカイブサポーターの養成や復興ツーリズムへの活用を視野に入れた取組となっており、デジタルアーカイブ化された災害の記録をどの様に活用していくかについての説明がされた。</p> <p>今後、想定される大規模地震災害の教訓として、岡谷市の防災計画への反映に向けて参考になった。</p>
<p style="text-align: center;">要請・陳情</p>	<p>○活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 4/27 市へ「感染警戒レベル5への引き上げに伴う経済対策に関する要望書」を提出 ② 11/22 市へ「令和4年度 岡谷市の予算編成に関する要望書」を提出 ① 11/22 市へ「原油価格高止まりによる石油製品高騰に対する緊急要望」を提出 <p>○活動の実績と効果</p> <p>①市長への「感染警戒レベル5への引き上げに伴う経済対策に関する要望書」の提出</p> <p>地域の飲食店からのヒアリングを参考に、諏訪圏域全体の新型コロナウイルス感染警戒レベル5への引き上げに伴い、経済圏域を同じにする市内の小規模事業者の厳しい経済状況に向けた対策を講じることを会派おかや未来研究室として市に要望しました。要望内容は、緊急的な支援（三項目）と継続的な支援（五項目）の構成になっている。</p>

	<p>また、岡谷市民新聞に要望書の内容を広告掲載した。</p> <p>※別紙「感染警戒レベル5への引き上げに伴う経済対策に関する要望書」</p> <p>②市長への「令和4年度 岡谷市の予算編成に関する要望書」の提出</p> <p>令和4年度予算編成にあたり、これまでの本市の各事業の取り組みの進捗を検証し、また、日頃、市民から寄せられている要望事項に加えて、将来を見据えた本市の政策課題解決に向けて調査・研究、議論を重ねて積み上げたものを要約して、7分野110事項を要望書にまとめて提出した。</p> <p>また、市民新聞に予算編成への要望書のダイジェスト版を広告掲載した。</p> <p>※別紙「令和4年度 岡谷市の予算編成に関する要望書」</p> <p>③市長への「原油価格高止まりによる石油製品高騰に対する緊急要望」の提出</p> <p>原油価格の高騰により、ガソリン価格が上がって仕事に支障が出ている方や灯油価格の上昇で家計が直撃されている方に向けた支援策を要望した。</p> <p>※別紙「原油価格高止まりによる石油製品高騰に対する緊急要望」</p>
<p>その 他</p>	<p>○活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/20 会派総会 ・会派定例会計39回開催（原則木曜日）※市民や市民団体との交流を含む ・各種勉強会他議案勉強会4回、理事者との懇談会4回 <p>○活動の実績と効果</p> <p>昨年度から継続して、会派の理念である『活力ある岡谷の未来を創るため、団結して行動し、議会の機能充実と議員の資質の向上を図ると共に、市民に信頼される政治活動に取り組む』こと、また会派テーマの『10年後の岡谷市をデザインする』に向けて、調査、研究、研修活動がスムーズに進められるように定期的な意見交換、勉強会、課題共有や意思疎通を図ることができた。また、コロナ禍で視察、会議、交流会等の制約がある中であったが、コロナの感染状況を見計らって、会派視察も含めて、事業計画に沿った活動を可能な範囲で実行することができた。</p>

【活動実績】

※会派活動報告書は年度ごとにまとめ、年度当該年度の収支報告書の提出に合わせ議長に提出するものとする。

※議長は、提出された会派活動報告書を収支報告書と同様に公開するものとする。